

TOPICS
1

City for Better Hearing

岡山市×岡山大学×デマント・ジャパン株式会社

三者連携で挑む 加齢性難聴対策の地域包括モデル創出

岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現のため、J-PEAKS事業では研究を核とした産官学連携を進めています。今回、岡山大学病院聴覚支援センターが中心となり取り組む「加齢性難聴の早期発見・早期対応」についてご紹介します。

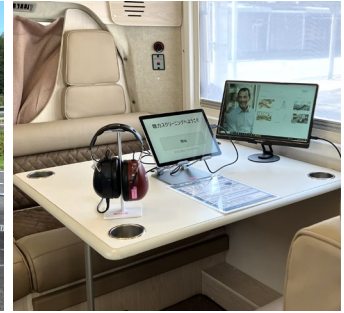


岡山市×岡山大学×デマント・ジャパン（株）
加齢性難聴の早期発見・早期ケアに係る連携協定締結式
左から齋藤徹デマント・ジャパン社長、トーマス・ホイランド・クリステンセン駐日デンマーク王国大使館経済外交保健医療分野担当公使参事官、大森雅夫岡山市長、那須保友岡山大学学長

2025年7月2日、岡山市×岡山大学×デマント・ジャパン株式会社で、加齢性難聴に対する正しい理解の促進とその早期発見・早期対応の体制構築を目的とした三者連携協定を締結しました。



検診車両「AudikaGo」（左）と自動聴覚検査機器「OtoKiosk」（右）
検診車両内に2台搭載。検査者なしで3～5分で難聴の有無、程度がスクリーニングできる。2024年度には県内8市町、約900人に実施し、難聴疑い者は約50%。



日本の加齢性難聴対策は先進国の中でも極めて低い

日本は高齢化が急速に進んでおり、身体機能の衰えに伴うさまざまな健康課題が顕在化しています。その中でも加齢性難聴は、70代で50%、80代では80%以上と、非常に頻度の高い疾患です。加齢性難聴は単なる聴覚やコミュニケーションの問題ではなく、社会的孤立やうつ、認知機能低下など、健康寿命の短縮に直結する課題です。特に認知症との関係は予防しうるリスク因子のうち最大とされており、早期の補聴器装用が推奨されています。しかし、日本における補聴器の装用率は約15%と先進諸国と比較しても極めて低い状況です。

その背景には、聞こえや補聴に対する当事者や社会の意識の低さ、補聴器販売の自由度、価格の高さ等、多数の問題が介在します。特に非都市部では、耳鼻咽喉科や補聴器技能者へのアクセスが限られ、不適切なルートでの補聴器購入者が後を絶ちません。

産官学連携で取り組む社会課題対策 ―City for Better Hearing―

これらの課題に対して、本学で多面的な取り組みを実装してきました。2023年度は、本学J-PEAKS事業のフィールドである吉備中央町で検査者不要の自動聴覚検査機器を使用し、遠隔判定が可能な聴覚検診を設置。更に2024年度には本機器を搭載した聴覚検診車AudikaGo（Audika岡山店所有）での聴覚検診を導入、県内8市町で運用してきました。岡山市はこの聴覚検診トライアルに加え、2024年8月より補聴器助成事業も創設。加齢性難聴対策に積極的に取り組んできました。協定締結を通して、「City for Better Hearing（聞こえを支えるまち）」の実現に向け、地域ぐるみで“聞こえ”を支える仕組みを構築し、高齢者のQOL（生活の質）向上と持続可能な地域社会の形成を実現します。



2025年4月、デンマーク国王来日に際して開催されたライフサイエンス会議に参加。デンマークは世界5大メーカーの3社がある補聴器大国でもある。

加齢性難聴の現状



- ・加齢性難聴は社会的孤立、うつ、認知症の原因となる(認知症のリスク因子のうち最大)
- ・早期の補聴器装用が予防に重要
- ・日本の補聴器装用率、満足度は先進国中最低レベル



高齢化率世界一の日本において
予防医療推進は緊急の課題!!

想定される補聴導入のボトルネック

特に非都市部では深刻

当事者の意識・知識

適所へのアプローチ

専門家の技量・知識

価格

必要な対策

啓発・検診

ルート作成
規制策定専門家教育・
意識向上助成制度の
導入/活用

City for Better Hearing

岡山市



岡山大学

Demant

パーパス: 「もっと聞きたい」人により良い聞こえを提供できるように

連携事項: 検診から医療機関受診・補聴導入まで一貫したルート整備

協力: 岡山県耳鼻咽喉科医会、岡山県医師会

①啓発

- ・難聴や補聴器に対する正しい理解の普及啓発



②検診

- ・自動聴覚検査機器/聴覚検診車AudikaGoを活用した検診



③早期診断

- ・難聴疑いの耳鼻咽喉科受診勧奨
- ・適切なルート提示



④早期対応

- ・適切な補聴導入
- ・岡山市助成制度活用
- ・専門家の質の向上



⑤効果検証

- ・検診・プロジェクトの効果検証
- ・補聴器助成の効果検証



効果的モデル作成
(中規模都市部型・非都市部型)

展望

- ・県内外の耳鼻咽喉科医過疎地域への聴覚検診の拡大展開
- ・適正な補聴器提供体制の整備・実装
- ・高齢者の聞こえと生活の質向上・介護者および介護費削減



このプロジェクトでは、高齢者や支援者に対して、加齢性難聴と認知症の関係や、不適切な補聴導入への注意喚起を含む啓発を実施し、正しい理解と適切な対応を促進します。同時に、住民に対する聴覚検診を起点に、耳鼻咽喉科受診や適切な補聴導入に向けた情報を提供する体制を整備、加齢性難聴の早期発見・早期対応を地域レベルで実現し、効果を検証します。

非都市部に展開できるヒアリングケアモデル構築

展望としては、他地域、特に非都市部への展開や高齢者福祉政策との統合を視野に入れた持続可能なヒアリングケアモデルの構築を掲げています。更に、高齢者の聞こえと生活の質の向上・介護者介護費削減に繋げ、社会的な意義を追求していきます。

補聴器の普及率が高く、予防医療が生活に根づいているデンマークでは、聴覚ケアが高齢者の自立支援において重要な役割を果たしています。City for Better Hearingは、まさにその哲学を日本の地域社会に根づかせるための挑戦といえます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14375.html

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/press_r6/press20240828-1.pdf



J-PEAKS

〇那須保友学長のコメント

加齢性難聴は誰も直面する問題であり、超高齢社会の日本において高齢者のQOLの向上と支援リソースの負荷軽減は喫緊の課題です。地域に根差したSDGs推進研究大学、そしてJ-PEAKSを担う地域の特色ある研究大学として、誰一人取り残さないCity for Better Hearingの実現に取り組み、岡山から世界に向けて、これまでにない「聞こえの支援モデル」を発信していきます。Community HealthとHuman Healthを実現させるための変革に挑戦する本学の取り組みにご期待ください。



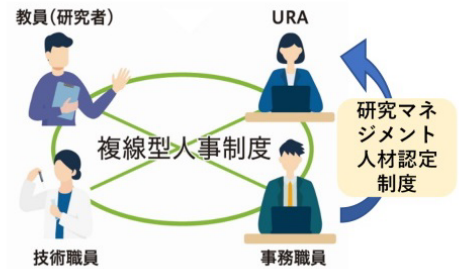
世界に誇れる
研究大学の山脈を築く

TOPICS
2

本学事務職員を「岡山大学研究開発マネジメント人材」に認定！～研究者の研究専念環境強化・教職員の高度化を推進～

本学は事務職員2名を新たに「岡山大学研究開発マネジメント人材」として認定しました。本制度は、研究開発マネジメントを担う人材育成と教職員の専門性向上を目的とし、URA認定機構の「認定URA」取得などを基準に審査を行います。

研究開発マネジメント人材は、研究内容を深く理解し、大学組織運営に関わる研究開発全般を担う高度な専門家です。今回の認定は、J-PEAKSを活用した大学改革の一環であり、研究者とマネジメント人材の連携を促進し、研究専念環境を強化するなどの重要な取り組みです。今後は認定者の更なる増加を行い、研究大学の運営を含めたマネジメント人材の内製化を精力的に進めます。



- 1.複線型人事制度（複数キャリア）
採用時の職種に縛られることなく、能力や適性を審査の上、**職種間の異動を可**とし、**人材を最適配置・活性化**
- 2.研究マネジメント人材認定制度
URA機能の内製化を目指し、研究マネジメント機能を拡充。**事務職員の専門人材化**を促進

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14363.html

TOPICS
3

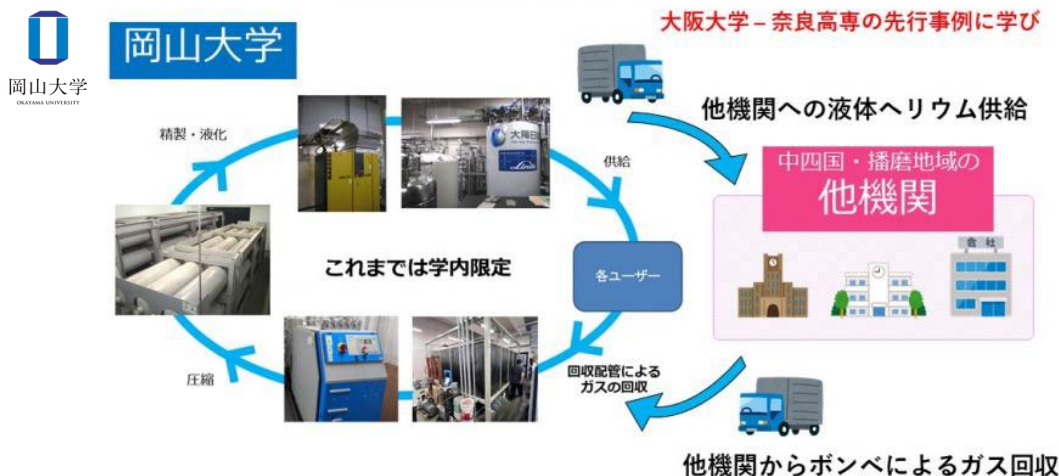
「中四国・播磨ヘリウムリサイクルネットワーク」始動に向け学内説明会を実施

「中四国・播磨ヘリウムリサイクルネットワーク(中四国・播磨HeReNet)」のキックオフに向け、学内説明会を開催しました。

本ネットワークは、希少な液体ヘリウムの有効利用と安定供給を目指し、他大学・機関との連携を通じて持続可能な研究基盤を確立する取り組みです。全量輸入に依存し価格高騰が続く液体ヘリウムに対し、ヘリウムガスを回収して再液化するシステムを構築することで学内での循環利用を実現するのみならず、地域の研究基盤を支えるネットワークを構築します。

今後は、近隣機関への供給体制を整備し、研究開発の裾野を広げ、日本の研究力向上に貢献することを目指します。液体ヘリウムの地域供給体制を確立し、より多くの実験に利用促進することで、「知と技のメッカとなる」地域中核・特色ある研究大学：岡山大学としての役割も目指します。

学内限定から 中四国・播磨ヘリウムネットワークへ



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14365.html

TOPICS
4

技術職員として初！中村有里技術専門職員が「JSEE AWARD」を受賞

本学総合技術部の中村有里技術専門職員が、これまでの工学教育の質向上等の長年の貢献が認められ、公益社団法人日本工学教育協会の「JSEE AWARD」を受賞。大学からの受賞は初、技術職員としての受賞は全国で前例がないという快挙です。中村技術専門職員は、これまでも多数の賞を受賞しており、現在も「岡山大学大学院修学支援制度」を利用してMBA取得を目指すなど、更なる活躍が期待されます。今後も岡山大学技術職員らの更なる発展にご注目ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14341.html

TOPICS
5

人事戦略のさらなる推進に向けて 三重大学と意見交換会を開催



本学共創イノベーションラボ（KIBINOVE）において、三重大学と研究マネジメント人材（URA）制度に関する人材確保や育成について意見交換を行いました。また、人材確保や若手職員の育成において、大学の取り組みに関する広報活動や学内周知の重要性なども確認しました。

本学は2012年にURA制度を導入し、J-PEAKSを契機に更なる多様な人事戦略を展開しています。今回の意見交換は、制度の意義や課題を再認識し連携を深める有意義な機会となりました。今後も他大学等との連携、協働等を促進していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14367.html

TOPICS
6

岡山大学「BIZENエコシステム」スタートアップ支援でAMED事業に採択～医療×産業で世界へ挑む、イノベーション拠点形成～

本学が推進する「BIZENエコシステム構築による産業振興拠点形成」が、AMEDによるスタートアップ支援拠点事業に採択されました。

本事業では、本学独自のオープンイノベーションプログラム「BIZEN」を核に、プロジェクトの特性に応じた適切なマネジメントを通じて医療機器開発からスタートアップ創出、そしてグローバル展開までを一貫して支援する体制の構築を目指します。

さらにJ-PEAKSとの連携・協働を通じて、本学の強みある医療・ヘルスケア分野の社会実装を強化促進し、地域から世界へと展開するスタートアップの育成に貢献します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1411.html



No.	重点課題
1	BIZENラボ・OJTプログラムによる医療機器開発「場」の提供
2	ニーズからコンセプト生成、プロトタイプを支援するプラットフォームの提供
3	データマネジメント体制拡充によるSaMD（Software as a Medical Device）開発基盤強化
4	各種専門人材（工学・IT、知財、事業保険、事業化等）による社会実装・事業化伴走支援
5	他拠点・他機関と連携したサポート体制 / 他拠点と連携したシーズブラッシュアップ
6	外部支援機関・ベンチャーキャピタルと連携した海外展開基盤整備 / 米国・ASEAN市場獲得に向けたネットワーク形成



TOPICS
7高等先鋭研究院 惑星物質研究所の大竹真紀子教授
がNASAの「コラディーニアワード」を日本人初受賞！

本学高等先鋭研究院を構成する惑星物質研究所の大竹真紀子教授が、NASAの太陽系探査研究バーチャル研究所(SSSERVI)の「コラディーニ賞(Coradini Award)」を受賞しました。同賞は、太陽系探査分野において継続的に顕著な科学成果を挙げた研究者に贈られる国際的に権威のある賞で、大竹教授は日本人として初めての受賞となりました。

本学では、研究力・イノベーション創出強化を戦略的に実施するため、惑星科学・宇宙物理分野を含めた7つの分野からなる「岡山大学最重点研究分野」を制定しています。J-PEAKSでも当該分野の研究力の強化促進を実施しており、受賞もその効果のひとつです。今後も大竹教授らの取り組みにご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14439.html



岡山大学
惑星物質研究所

TOPICS
8

地域共創型取り組み「シネコカルチャー(協生農法)プロジェクト」本格始動～産学官共同開発の遠隔操縦式草刈機 実証予定地で初作業～

学生主体で耕作放棄地の再生と自然共生型の地域づくりに挑戦する「シネコカルチャー(協生農法※)プロジェクト」。今回、実証予定地で初めて草刈りを実施しました。草刈りには、オカネツ工業が主体となり、産学官で共同開発したラジコン式草刈機「AIRAVO(アイラヴォ)」を使用。本機は遠隔操作に対応しており、手作業に比べて作業負担を大幅に軽減できます。さらにハンマーナイフ式のため、刈り取った草を細かく粉碎し、そのまま敷草(マルチ)や堆肥素材として活用できる利点があります。

今回の作業を皮切りに段階的に取り組みを推進し、産学官民の連携を通じて、地域資源を生かした持続可能な環境づくりと学生の実践的な学びの場の創出に取り組んでいきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14409.html



※「協生農法®」は株式会社桜自然塾の登録商標。

※「Synecoculture™(シネコカルチャー)」はソニーグループ株式会社の商標。

TOPICS
9

異分野融合と拠点形成を志向した「微生物エクスプローラーズ」第4回ミーティングを開催

微生物を研究対象とする学内の研究者の交流を促進し、新たな共同研究や学問分野の創設につなげることなどを目指し発足した「微生物エクスプローラーズ」の第4回ミーティングを開催。今回は、医療系キャンパス(鹿田キャンパス)で開催され、岡山大学病院や医学部、歯学部の研究者らと研究交流、及び今後の学内拠点形成や産学連携の拡大などについて議論が交わされました。

J-PEAKS事業では研究の「厚み」の強化とともに、「芽」を育むための活動を精力的に取り組んでいます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14360.html



TOPICS
10

高分子化学・機能性材料分野の国際シンポジウムを開催～国内外の第一線研究者が最新成果を発表、若手研究者と交流～

本学共創イノベーションラボ(KIBINOVE)で、「高分子化学・機能性材料に関する国際シンポジウム」が開催され、国内外の研究者、学生、企業関係者ら約70人が参加しました。

那須保友学長は冒頭のメッセージで、「J-PEAKS採択を受け、2050年の将来を見据えた『岡山大学ビジョン』のもと、革新的な材料開発を重点研究分野のひとつとして推進しており、本シンポジウムは、まさにそのビジョンを体現する場であり、非常に意義深いものである」と述べました。

招待講演では、国内外の研究者らが発表を行い、最新の研究成果や技術動向について活発な意見交換を行い、次に生かす成果が生まれました。

2日目は若手研究者や大学院生による発表やポスターセッションを実施し、研究交流のみならず、次世代の国際ネットワークへの参画強化も実施しました。

本学はJ-PEAKS事業を通じて研究拠点を強化し、世界に貢献できる革新的な材料開発を推進するとともに、次世代研究者の育成に力を入れています。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14424.html

イチオシの研究設備

ICP発光分光分析装置

Agilent ICP-OES 5800

ICP発光分光分析とは、高周波誘導結合プラズマ(ICP)を光源とする発光分光分析法です。霧状の試料溶液をArプラズマに導入し、目的元素を励起すると、元素が基底状態に戻るときに元素固有の波長をもつ発光が生じます。波長位置から試料に含まれる元素の定性分析を、発光強度から目的元素の定量分析ができる装置です。高感度かつ多元素同時分析が可能です。数多くの無機元素が測定可能であり、金属、化学、薬品、食品、環境など幅広い分野で用いられます。

本装置は本学津島キャンパスのコラボレーション棟に設置されており、自己測定に加えて、



サイテックコーディネータやテクニカルリサーチャー(TR・技術補佐員)の伴走支援での測定も可能です。

また、研究設備機器共用システム「コアファシリティーポータル(CFPOU)」の以下のURLから詳細を閲覧可能です。

J-PEAKSの取組として、大型分析装置等の中四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化等を通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメッカを目指しています。

【管理者】

自然生命科学研究支援センター
分析計測・極低温部門 分析計測分野
砂月幸成・増永幸・TR



本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちら：cfp@okayama-u.ac.jp

参考 <https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/1221>